第118号/ ふじのくに静岡県

消防学校ニュース

令和3年7月号

今回の熱海伊豆山地区の災害で亡くなられた方に対して、心からお悔やみ申し上げますとともに、避難所生活や大変な思いで生活されている方の心痛をお察しいたします。
また、災害対応で昼夜尽力なされている消防職員をはじめ関係者の方々に、感謝申し上げます。

初任科　校長通常点検

グラウンドに全員集合

校長による厳しい点検

校長からの訓示

ついに来た！緊張の一瞬

緊張する初任科生たち

初任科生が入校して３か月が経過し、この間、毎朝欠かさず教官による通常点検を実施してきました。通常点検とは、消防活動に際し有効適切な措置をとるように、人員、姿勢、服装、手帳等の点検をし、その不備の点は整備又は反復訓練して是正するものです。

６月 26 日（火）、ついに校長による通常点検が実施されました。校長から「命と時間は戻らない。１人１分の遅れが、120 人全員では 120 分の遅れとなる。その点をしっかりと頭におき、行動してほしい」との訓示がありました。

校長点検は学校に慣れてきた初任科生にとって大いに気が引き締まる通過点です。

初任教育本格化

～基本なくして応用なし～

救急実技訓練

ドア開放訓練

はしご搬送訓練１（学校外周）

はしご搬送訓練２（屋外訓練場）

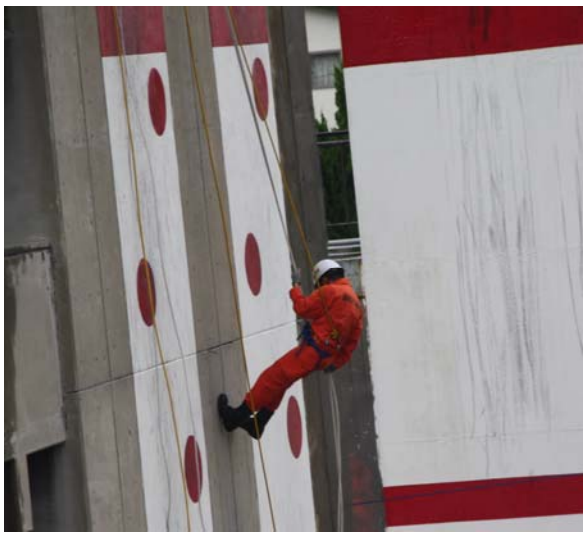
英語（めまいがする、家が燃えている等の言い方を取得）

書道（感じる力、集中力を高める）

手話（どうしましたか、助けが必要ですか等の手話を取得）

応急はしご救助訓練

ロープ渡過訓練



懸垂降下訓練

（担当教官から）
　入校して約４か月座学、実科訓練及び寮生活を通じて、社会人・公務員・消防士として必要な基礎教育を徹底的に行ってきました。
　これから本格的な夏を迎え気温も更に高くなり厳しい環境下での教育訓練になります。
　残り約２か月、まだまだ教育訓練は続きますが、学生達には「あたりまえ力」はもちろんのこと、自らが「気づき・考え・行動」できるような消防士として成長することを期待します。

教務課主査　中村　一二三
（静岡市消防局から派遣）

実火災体験型訓練

　６月２日（水）10 日（木）に、濃煙熱気実火災訓練装置を使用し、燃焼物からの熱や可燃性ガスから起こる中性帯やロールオーバー等、火災現場と同じ現象を体験する訓練を実施しました。施設内では、内部の上層部は 380℃～400℃、中層部は 200℃～250℃、低層部は 70℃～80℃になります。学生は防火衣、空気呼吸器を完全着装し、低い姿勢を保ちながら進入しました。座学で火災理論、コントロールボックスを使用した模擬火災実験を学習していますが、火災による受熱、視界不良や狭隘空間等、学生にとって初めての実践的な体験となりました。

（担当教官から）
　近年、火災件数の減少から実践的な現場経験をする機会は少なくなっています。また、建物構造の変化に伴い高気密高断熱の住宅が増え、消火活動はより高度な知識と技術が必要になり、火災性状の把握は必須の知識でもあります。学生は今まで想像していた現場をこの訓練を通じて体験ができたので、今後の訓練や修了後の活動に活かしてほしいです。　　教務課主査　森下善弘（御前崎市消防本部より派遣）

初任科危険物取扱者試験結果

前人未踏！合格率１００％！をめざして気合をいれろ！

「危険物取扱者」は、消防法に基づく危険物（火災の危険性が高い物質をまとめて指定）の取扱いや、その取扱いに立ち会うために必要となる国家資格です。資格取得のための試験は、現在、全都道府県の指定試験機関（総務大臣が指定）である（一財）消防試験研究センターが行っています。

（一財）消防試験研究センター静岡県支部の協力により、６月17日（木）、本校において初任科生を対象とした危険物取扱者試験が実施されました。

（担当教官コメント）

危険物取扱者試験は、全学生が乙種第４類又は他の類を受験します。学生にとっては入校期間中初めての国家試験であり、「初任科第９２期全員合格！！！」を目標に、入校直後から学習を始めました。

危険物取扱者試験に向けた学習では、『火災のメカニズム』や『消火理論』を十分に学ぶことができ、さらには、広範多岐にわたり利用されている『危険物』に対する知識も習得することができます。このことからも、「危険物取扱者試験」に関する知識を習得することは、災害に対応する消防職員として必要不可欠である重要な事と、この程度の壁は、難なく越えられる強い精神力と行動力を持ち取り組むように学生へ伝え、今回の試験に臨みました。結果は目標の全員合格は達成できなかったものの、**歴代２位の合格率**で試験を終えることができました。学生は、試験を通じて集団生活での勉強の難しさ、時間の有効活用等、多くの事を学んだと思います。

また、今回をきっかけに他の類や予防技術検定等、消防関係の試験に積極的に臨んでほしいと思います。不合格の学生はコロナの影響で直ちに再受験できませんが、初任科修了後に合格を目指してほしいです。

教務課主査　森下　善弘（御前崎市消防本部から派遣）

令和3年度　初任科第92期

令和3年6月17日実施、7月6日結果通知

＜乙種第4類＞（ガソリン、軽油等）
受験者107人　合格者102人　合格率95．3%

＜乙種第2･6類＞
受験者11人　合格者11人　合格率100%

【全体】
受験者　118人　合格者113人　合格率95．8%

本試験満点で合格した学生

【過去の合格率】

区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	79期	80期	81期	82期	83期	84期	85期	86期	87期	88期	89期	90期	91期	92期
乙4のみ	54.5%	91.9%	52.2%	53.3%	42.1%	58.3%	72.8%	71.0%	91.6%	94.6%	90.0%	87.0%	97.4%	95.3%
乙4+各種	58.5%	90.9%	54.1%	55.7%	45.7%	62.5%	74.7%	75.7%	90.7%	94.9%	91.0%	88.8%	97.7%	95.8%

新任教官紹介　～大いなる成長を期待しています！～

今年度、消防学校に新たに加わった教官３人を紹介します。３人は４月からの慌ただしい中、先輩教官の指導のもと試行錯誤しながら、初任科生からの影響も受け、業務に取り組んでいます。

なお、優秀な教官を派遣していただいている消防本部には、心より感謝申し上げます。

消防学校へ赴任しすでに３ヶ月。初任科生と時間を共にする中で、改めて教育訓練を通じた人材育成の重要性を強く感じます。

職務への使命感や協同精神、規律の保持といった消防人の根幹と、基本の技術、知識に立脚した自律的思考を身につけ、各所属へ戻ってほしいと考えています。

教官自身、新たな知見やあふれる情報の中から何が必要かを考え、先達の知識や経験を初任科生に伝えるだけでなく、時には伴走者として寄り添い、進む道を模索する姿勢も必要でしょう。10 年後、20 年後に消防組織を背負う彼らを想像し、今このときに何を伝え示すのか、時として自問自答することもありますが、教学半（教うるは学ぶの半ばなり）を忘れず日々の教育へ臨みたいと思います。

教務課　主査　吉瀬　大介（富士山南東消防本部から派遣）

吉瀬教官

山田教官

今年の４月から消防学校教官に着任し、毎日学生とともに汗を流しながら激動の日々を過ごしています。少しずつ成長していく学生の姿に、やりがいと幸せを感じ、教育に打ち込む活力の糧となっています。

消防の業務は、全ての地域住民に奉仕するためにあります。時代の流れとともに災害や住民ニーズは高度化かつ多様化し我々消防職員にも変革が求められています。私の使命は、それら複雑困難な業務を完遂できる消防職員の育成です。教育により人は変わります。人の「行動の変容」が消防学校の職責であると理解し、毎日が重要な一日と捉え、全力で学校教育に務めていく所存です。

教務課　主査　山田　友也（静岡市消防局から派遣）

消防学校教官として派遣され３か月が過ぎ、初任科生の成長に感慨深く思う毎日です。

憧れであった教務服に袖を通した瞬間に感じた重責の緊張感は今でも鮮明に覚えています。

教育訓練・人材育成は想像以上に難しくもありますが、学生たちが消防学校で学んだことを、今後所属に戻り現場で活かせられるよう、知識・技術・日々の経験を自身の財産にして欲しいと願っています。

その為に教官という立場からどのように指導していくべきかと常に学生の立場になりながら、今後も考えていきます。

自分自身も初任科で学び経験した当時を振り返りながら、再びこの場にいられることに感謝し、職務を全うしていきたいと思います。

教務課　主査　望月　竜之介（志太消防本部から派遣）

望月教官

太田校長のちょっといい話

第92期

熱海市で土砂災害による甚大な被害が発生し、この原稿作成中にも懸命な救助活動が続けられています。

お亡くなりになった方の御冥福をお祈りするとともに、避難生活を続けられている方々の一刻も早い生活再建を願っております。

私も、7月9日から12日まで、熱海市役所に派遣され県・市町職員の派遣調整業務に従事させていただきました。

大規模災害発生時には、救助活動と平行して、被災された方々に対する様々な支援業務が発生しますが、通常業務も行いながら、経験やノウハウがほとんどない業務を実施していくためには、県、市町からの支援が不可欠となります。

熱海市のニーズの取りまとめと派遣する職員に必要となるスキル、必要人数等に関する調整をさせていただきましたが、観光都市であるがために被災者イコール住民(住民台帳に記載されている方)とは限らない点や被災現場の特殊性(重機の投入が困難、土砂災害再発の恐れなど)から救助活動の見通しが立ちづらい等の問題があり、今までの災害に比べ派遣業務の調整も非常に困難で手間がかかり、調整途中で後任に引き継ぐこととなってしまいました。

熱海市派遣で改めて感じさせられたことは色々ありましたが、改めて思い返した名言としては、**「概して人は、見えることについて悩むよりも、見えないことについて多く悩むものだ」**ユリウス・カエサルと**「何をやっているのか知らないことほど恐ろしいことはない」**ゲーテの言葉でした。

普段の仕事においても、失敗したらどうしようかと悩んだり、何のためにその仕事をやっているのか理解しないで、上司から言われたからやっている。ということはどの職場でも見られると思います。

派遣期間中、本部員会議、調整会議への参加や熱海市職員、静岡市、浜松市からの派遣職員等との意見交換や派遣部隊の方々との情報交換を行わせていただきました。

救助活動については、現場という見える対象があり、部隊調整、安全管理、救助手段の選定等検討すべき項目も明確であり、ミッションや問題点も各部隊間で共有されていると感じましたが、被災者支援については、大規模災害に対するノウハウが少ないこと、関係する部署、関係機関が多数あること、住民の心の内まで勘案する必要があることなどから、目の前の仕事に没頭するあまり、部署間の情報共有が図られていないと感じ、主要部署間での情報共有・調整のための会議の開催を提案し、実施させていただきました。

災害のような非常時こそ、情報共有による見える化の強化、一呼吸して廻りを見渡せる余裕を持つこと、そして、常日頃の訓練の重要性を改めて感じました。学校でも共有して行きたいと思います。

応援部隊調整会議

市職員情報共有会議

編集・発行/ 静岡県消防学校　〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190　FAX; 054-369-1197　E-mail;fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校　検索